

2010 年度 NGO・外務省定期協議会
ODA 政策協議会 NGO 側振り返り

2011 年 5 月 23 日
ODA 政策協議会コーディネーター一同

2010 年度の振り返り

【成果】

- ・年間を通じて、大変よい雰囲気のもとに協議を実施することができた。
- ・短い時間ではあったが、政務三役の出席があり、議論を共有することができた
- ・「ODA のあり方の検討」に関わる議論を継続しながら深めることができた。
- ・協議会での議論がきっかけとなって JICA と NGO との共同の取り組みへとつながった事例があった

【課題】

- ・従来から指摘していることだが、議論がかみ合うための条件作りの点で、不十分な面があった。事前質問への外務省側からの応答、情報提供が協議会当日になることが多かった点、他方、NGO 側の議題の論点が十分絞込まれていない事例があった点などにおいて、双方が改善の努力を要する。
- ・政務三役の出席を形式的なものとしないうために、重要議題の議論と出席時間との調整に工夫が必要。

2011 年度へ向けて

【継続すべき課題】

- ・ODA のあり方に関する検討最終報告『開かれた国益の増進』で示された方向性をフォローアップするプロセスにおいて、NGO と外務省との常設の協議体として必要な役割を果たす。
- ・ODA 大綱、中期政策の改定のプロセスを開かれたものにするため、NGO と外務省との常設の協議体として必要な役割を果たす。

【今後の改善へ向けて】

- ・NGO 側コーディネーターのイニシアティブにより、一度扱った議題のフォローアップを行ない、必要な場合は適切な論点整理を行ないつつ、継続した議論を行なえるようにする。
- ・副大臣、大臣政務官の出席やサブ・グループの運用など、当協議会に期待される位置づけや役割について、これらを十分に活用するための模索を行なう。
- ・さらに開かれた政策対話の場を実現するために、だれにも分かりやすい運営や議事進行のあり方を検討し、あわせて地域開催の充実を図る。また、IT を活用した中継や参加のあり方を外務省と協議する。